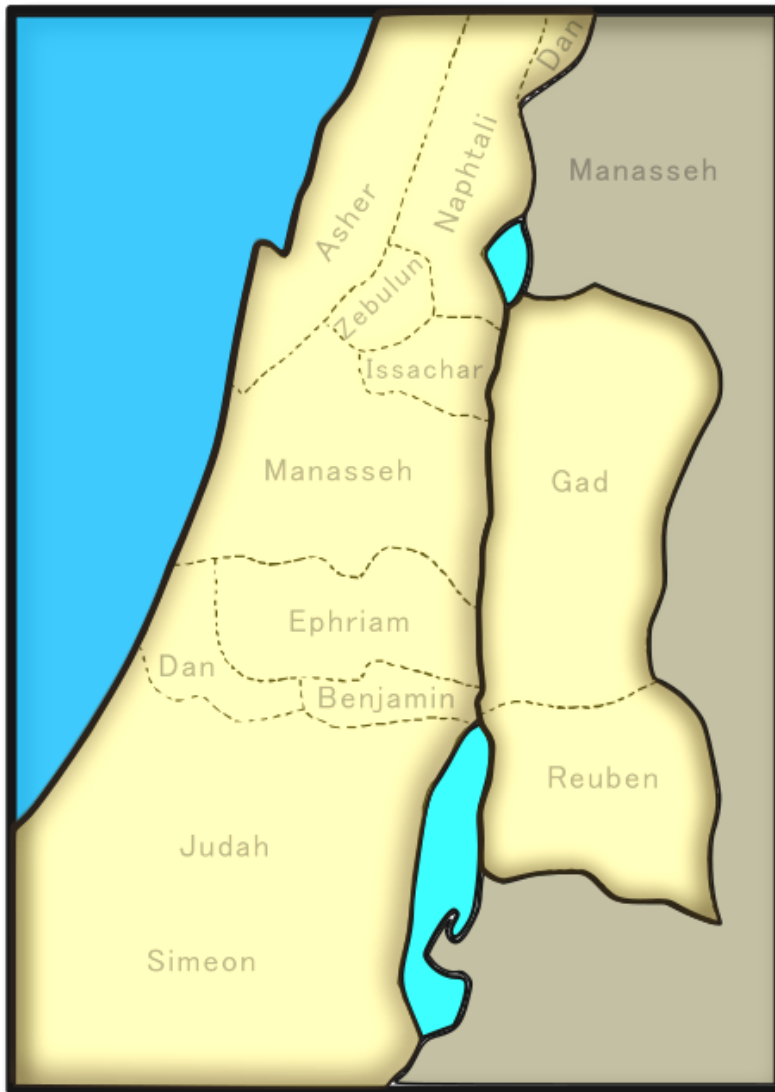


分割された土地

定住はしたが、統一されなかった



ヨシュア記 13 - 21

第11課:分割された土地

定住はしたが、統一されなかった

聖書

本	著者	章	年
ヨシュア	ヨシュアおよび他の人物	13 - 21	紀元前1400-1370年

概要

ヨシュア記13章から21章には、カナンの地が軍事的勝利の後、イスラエルの12部族にどのように分割されたかが描かれています。各部族は割り当てられた領土を受け取り、レビ族には土地の代わりに特別な都市が与えられました。また、礼拝の中心である幕屋はシロに設置されました。

レジュメ

まだ征服されていない土地 — ヨシュ記13

- ヨシュアはすでに高齢であり、まだ所有されていない土地が多く残っていました。
- 神はヨシュアに、部族間で土地の割り当てを始めるよう命じます。
- ルベン族、ガド族、マナセ族の半部は、ヨルダン川の東側の土地を受け取ります

カレブの相続地 — ヨシュ記14

- カレブ（85歳）はヘブロンを相続地として求め、実際に受け取ります。
- 彼の信仰と大胆さは報われました。民数記13～14章以来、彼は神を信頼し続けていました。

ユダ、エフライム、マナセへの割り当て — ヨシュ記15～17

- ユダ族（カレブの属する部族）は最大の領土を受け取ります。
- エフライム族とマナセ族（ヨセフの子孫）は中央部の土地を受け取ります。
- ヨセフの子孫は土地が十分でないと不満を述べ、ヨシュアは彼らに丘陵地帯を開拓するよう促します。

土地の調査 — ヨシュ記18

- 7つの部族が占領を遅らせていたため、ヨシュアは彼らを叱責します。
- 彼は、まだ割り当てられていない7部族のために土地を測量するよう人々を派遣します - ヨシュ記 18:1-10

残りの部族の相続地 — ヨシュ記19

- ベニヤミン、シメオン、ゼブルン、イッサカル、アシェル、ナフタリ、ダンの各部族が相続地を受け取ります。
- ヨシュア自身もティムナテ・セラに相続地を受け取ります - ヨシュ記19:49-51

避難の町 — ヨシュア記20

- 過失による致死を犯した者のために、6つの避難都市が設けられました。
- これらの都市は神の正義と憐れみを象徴し、裁判までの保護を提供します

レビ人の町 — ヨシュア記21

- レビ人には、すべての部族の領土に点在する48の都市が与えられます（彼ら自身の部族の土地はありません）
- レビ人は土地の相続地を持ちませんでしたが、主ご自身が彼らの相続地となりました - ヨシュ記21:1-3

概要

この書は力強い言葉で締めくくられます：

「主がイスラエルの家に語られた良い約束は、一つも漏れることなく、すべて実現した。」 - ヨシュ記21:45

要点

- ヨシュ記21:43-45には、神がイスラエルに与えた良い約束の一つ一つがすべて成就したと記されている。
- 私たちも、ためらうことなく大胆に踏み出し、神に与えられた相続地を信仰によって受け取るべきです。
- 避難都市の設立を通して、神はご自身が「正義」と「憐れみ」を重んじる方であることを示されました。